

モデル事業名	地域の自然・文化資源の活用による観光情報提供事業
活動団体名	まちの駅ネットワークかぬま
ホームページ	団体独自のHPは無い。鹿沼市HPのなかで紹介⇒ www.city.kanuma.tochigi.jp/
所属/ 担当者名	まちの駅ネットワークかぬま / 相談役 福田義一、庶務会計 井上玉枝、佐藤永子
連絡先	まちの駅ネットワークかぬま 相談役 福田義一 0289-63-2181 (鹿沼市経済部内) y01fukuda@city.kanuma.tochigi.jp
活動地域	栃木県 鹿沼市 全域

● 活動地域の概要

○栃木県の県央西部。北は日光市、東は宇都宮市に隣接。標高1300m以上の高原や連なる山々から標高80mの関東平野の一角を占める水田地帯まで多彩な自然環境をもつ。

○面積 約490平方km²。その約7割が森林。

○人口 102,372人。高齢化率22%。世帯数 35,558。

○鉄道 JR日光線(鹿沼駅)、東武日光鬼怒川線(新鹿沼駅他)

○道路 東北自動車道(鹿沼IC)、国道121、293、352号線が通る。23年開通の北関東自動車道と東北自動車道のジャンクションが本市に近接し、鹿沼ICは北関東自動車道とつながる。

○鹿沼土とさつきに代表される園芸、いちご、ニラ、和牛など全国有数の生産を誇る作物を持つ農業、良質材を生む林業、4つの工業団地をもち、木工、機械、金属などが地場産業。彫刻屋台、川上澄生美術館、温泉、高原や湿原などの観光資源が豊富。

○市内に、商店、事務所、公共施設、個人宅などが自主的に設置する「まちの駅」が約84箇所(設置数全国一)。

○中心市街地の遊休地(ジャスコ跡地)に、おもてなしの観光交流拠点となる「まちの駅“新・鹿沼宿”」を建設中(23年春オープン予定)。



位置図

● 活動地域の課題

○鹿沼市は、世界的な観光地である日光の隣に位置し、豊かな自然やユニークな文化資源、グルメなど、多くの観光資源を有している。これらを活用し、市民、行政が一体となった観光振興を実現したい。

○鹿沼市では、首都圏はじめ全国への観光情報発信と誘客に力を入れるため、21年度に「観光交流課」を設置した。また、市民が自主的に設置する「まちの駅」の数は日本一を誇る。

○21年度のモデル事業では、観光資源や「まちの駅」を巡るモデルコースを設定し、実践ツアーも実施した。今後、官民共同で、さらに多彩なコースづくりとそのPRに努めなければならない。特に、23年春オープンの「まちの駅“新・鹿沼宿”」を拠点とした回遊コースとその案内ボランティア養成が重要。

● 活動の内容

「まちの駅ネットワークかぬま」は、「おもてなしとボランティアの心」で自主的に「まちの駅」を設置している人が、会費を出し合い、研修やまちづくりに寄与するような事業(スタンプラリーなど)を実施している。

【20年度】市民(グループ)がそれぞれ関心の高い分野で役割を担いながら、自然・文化資源の発掘とその活用とPRを図り、観光情報として市内外に受発信するシステム、および情報の発信者と受信者のネットワークを構築した。新たな共助の担い手となる鹿沼を好きな市民「市内かぬマニア=情報発信ボランティア」と鹿沼を好きな市外(首都圏等)住民「市外かぬマニア=鹿沼ファン」を公募 / 市内観光施設のメンテナンススポットや回遊ルート(歴史探訪ルート等)とおもてなしスポットの発掘及び活用法の検討 / メンテナンスやおもてなしの方法と必要な施設整備の検討、情報受発信やメンテナンスをボランティアで実践するための手法の検討検証をワークショップ形式で実施 / お勧めスポット等を記載したマップの作成し、Webで観光情報を鹿沼ファンに提供できるシステムの構築 / 「かぬマニア研修会」等の開催 / 市内外の「かぬマニア」の交流促進イベントの実施 など

【21年度】20年度に構築したシステム、ネットワークを活用し、市民が中心となった観光振興を推進するための人材育成とモデルツアーの試行を行い、担い手の確保と事業の継続に向けての検討を行った。

鹿沼ファンを案内するための案内人研修会とそのグループづくり / 観光モデルコースを設定してイベントに合わせた観光案内 / 鹿沼ファンの拡大募集 など

(直近1年間の進捗など)

・22年度は、21年度のモデル事業で作成したマップを活用しながらスタンプラリーを実施中。

・石川県で22年10月に開催した「まちの駅全国大会」に、栃木県内の「まちの駅」に声をかけ、バスツアーを組んで参加し、昨年の開催地として、活動発表などを行い、再度全国にアピールした。

・モデル事業でスタートした「鹿沼ファン」募集は、市の観光行政に引継ぎ、募集と「鹿沼ファン」への定期的な情報提供を継続している。

● 活動の成果

- ・新たな観光資源の発掘、モデルコース設定、鹿沼ファンの募集など、モデル事業で実施した事業は、いずれも継続的に活用できるものであり、鹿沼市の官民協働による観光振興に寄与している。
- ・21年度「まちの駅全国大会」を開催したことで、「まちの駅ネットワークかぬま」の会員の団結を深め、意識を高めることができた。また、大会を機に、栃木県内の「まちの駅」の連携が深まった。



市内のまちの駅



研修会の様子



交流イベント



交流イベント



モデルツアー



モデルツアー



モデルツアー



モデルツアー

写真上

20年度、21年度に実施したモデル事業の様子。

写真左

22年10月に石川県白山市鶴来で開催された「まちの駅全国大会」にまちの駅ネットワークかぬま+オール栃木のまちの駅として参加。鹿沼での取り組みをPRしつつ、全国のまちの駅との絆を深めることができた。



● 直近1年間の成果など

- ・市民が中心となって観光振興計画の実施計画（「観光案内ネットワーク計画」）を策定することができた。この計画の中には、観光案内サインの計画、情報の計画（モデルコースの策定、情報の収集提供など）、人材の計画（育成と活用）が盛り込まれている。本計画の策定には、「まちの駅ネットワークかぬま」も参画した。
- ・市民団体と行政との共催による首都圏からのバスツアーを2回実施し、合計63名の参加者を得た。
- ・「鹿沼ファン」の募集と情報提供のシステムが確立し、21年12月に144人だったファンは、1年後に倍増し、約280人になった。
- ・21年度に、鹿沼市内で全国大会を実施したことなどでマスコミにも取上げられ、市内での「まちの駅」の認知度が高まった。

● 今後の課題及び展望

・課題（活動を通して発見された課題等を記入）

- ハード、ソフト両面の基盤が整いつつあるので、今後、年間を通したイベントへの団体誘客や日常的な個人客の誘客のためのPRを計画的に行う仕組みを確立する必要がある。
- 鹿沼を訪れる人、特にリピーターを増やすため、市民が設置している各「まちの駅」の“おもてなしとボランティアの心”はますます重要になる。研修などにより各「まちの駅」自らのスキルアップをしなければならない。

・展望（今後の取り組みや検討について記入）

- モデル事業で、まち歩きや市内回遊のモデルコースを活用したバスツアー等の観光ツアーが可能であることが実証された。今後は観光ツアーの定例化や事業化についての検討を行う。
- 観光拠点となる「まちの駅“新・鹿沼宿”」を整備し、ここを拠点とした市内観光を拡充するため、市と観光物産協会では、首都圏や東北地方などの旅行会社へのPR活動を行っている。また、「観光振興計画」や「サイン計画」を策定し、案内板の設置なども始まった。
- 今後、「まちの駅」と行政、観光物産協会、市内外のボランティア団体などとの連携により、イベントやツアー等の様々な誘客事業を展開し、全国からの多くの「鹿沼ファン」を迎えられる「笑顔あふれるやさしいまち鹿沼」の実現をめざす。